



町長コラム

Vol.18

## とびらをあけて

九重町長 日野 康志

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種も、希望者全員の集団接種がこの9月をもって終了しました。玖珠郡医師会の皆さん、看護師の皆さん、臨時に携わってくれた住民の皆さんなど、多くの関係者のご協力を頂き、無事に終了することが出来ました。心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

また、接種された住民の皆さんから、感謝の気持ちを伝えて頂き、職員も私も安堵しています。今後も、3回目の接種が必要となるかもしれませんが、皆さんのご協力も頂きながら現場の実態に沿えるような対策を講じていきますので、宜しくお願いします。尚、個別接種の希望者につきましては、10月も引き続き町内4か所の病院で受けられる事を申し添えておきます。

また、昨年7月の豪雨災害や本年8月の集中豪雨や台風等の影響で災害に見舞われた皆さん、感染症の影響で観光業や飲食店などを始め多くの産業で被害に遭われた皆さんなど、多くの住民が大変な時代を迎えております。その影響だけではありませんが、行政に携わる私たちも、感染症対策と経済政策の両立、並行して通常業務を進めなければならない、大変な時代を迎えています。人口減少も然りです。

しかし、こんな時代だからこそ『共』という言葉が大切だと感じています。人間一人で出来る事などありません。いつも、どんな時でも、人と人が支え合っているから、生きられるのです。苦難にも耐えられることが出来るのです。企業も自治体も政府も家族も人も目的はそれぞれですし、方法もそれぞれですが、すべて人の支え合いで成り立っています。当たり前の事すぎて、皆さんに笑われるかもしれませんが、常に「共存 共栄」を念頭に置きながら、行政運営を心掛けて参ります。

最後に一言、波は常に上がったり下がったりします。良い時もあれば、悪い時もあります。今は悪い時かもしれませんが、未来が良くなる様に今努力しておかなければなりません。次回は、温かい明るい話を書きたいと思っていますので、またご覧ください。



## 幸せになろうね



No.302

昨年の8月に文部科学大臣より、保護者や地域の皆様へ、「新型コロナウイルス感染者への差別をなくすお願い」が出されました。

お願いでは、第一に、「感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さない」ということ、第二に、「学校における感染症対策と教育活動の両立に対する理解」を求めるものでした。

しかし、このお願いが出された以降も感染者への誹謗中傷は止むことなく、全国各地で感染者への『口撃』、学校や会社へのクレーム、個人宅ポストへの文書投函、落書きや大分県内でもクラスターの発生した学校の生徒へ登校中に暴言を浴びせるなど感染した方を苦しめる様々な行為が行われております。

先日、大分県内のニュースで新型コロナウイルスに感染したご夫婦の話がありました。このご夫婦は飲食店の経営をされていますが、二人で感染し、店の休業をやむなくされました。

感染したことにより、今後の店の運営や周囲の人からどんなことを言われるのだろうと大きな不安がありました。しかし、予想に反し、常連さんや周りの方から体の心配や大きな励ましがあり、安堵したそうです。この常連さんや周囲の方のような「気遣い」ができる方が増えると良いと思います。

誰もが新型コロナウイルスに感染する可能性があります。感染した人を責めるのではなく、感染対策を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。感染を責めれば、医療機関での受診をしなかったり、感染を隠したり、地域での感染の拡大にもつながります。自分が差別を行わないことだけでなく、周りに差別につながる発言や行動があったときには、それに同調せずに否定するなど、様々な差別をなくす努力が必要です。

教育振興課

●人権に関する相談は、九重町隣保館へ

(☎0973-76-2468)